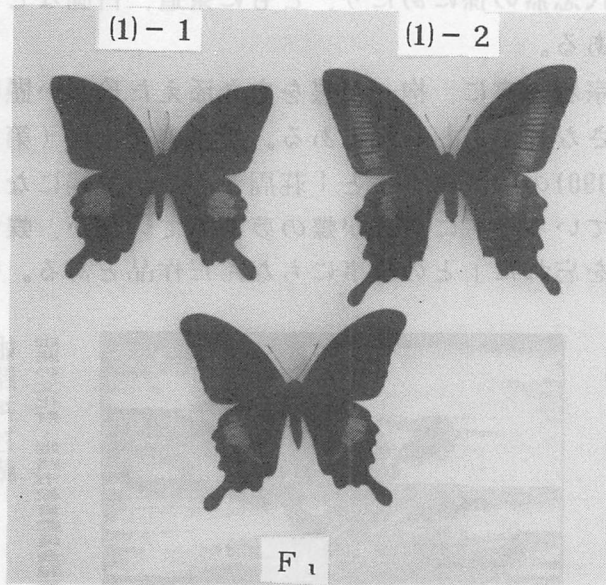


交雑によるアゲハチョウの研究は、南山大学の阿江茂博士により多くの雜種が
つくられている。それらは同博士による「アゲハチョウの生物学」に詳しい。

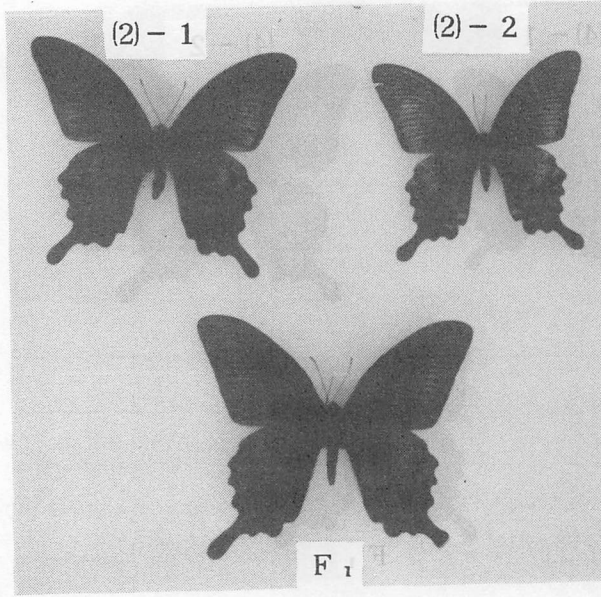
筆者は台湾へよく採集にいており、十数年前より台北動物園胡蝶館の周英勇
氏と知り合い懇意にしてもらっている。その周氏が、やはり交雑し、雜種の研究
もしている。筆者にも次の5 F₁を恵贈されたので記録しておく。発表を許可さ
れた周英勇氏に御礼申しあげます。

なお、分類学上別種とされているアゲハチョウの中にも、結構掛け合わせてみ
て意外に簡単に交雑可能の場合があるようだ。例えば筆者の手許にある日本産キ
アゲハ♂×ミヤマカラスアゲハ♀の人工交配雜種などは外観模様からいえばその
よい例といえる。しかし、その逆の場合もあるようで、種としての独立性には各
種の段階のものが存在するようである。後に述べるルリモンアゲハとオオルリモ
ンアゲハがその例ではないだろうか。

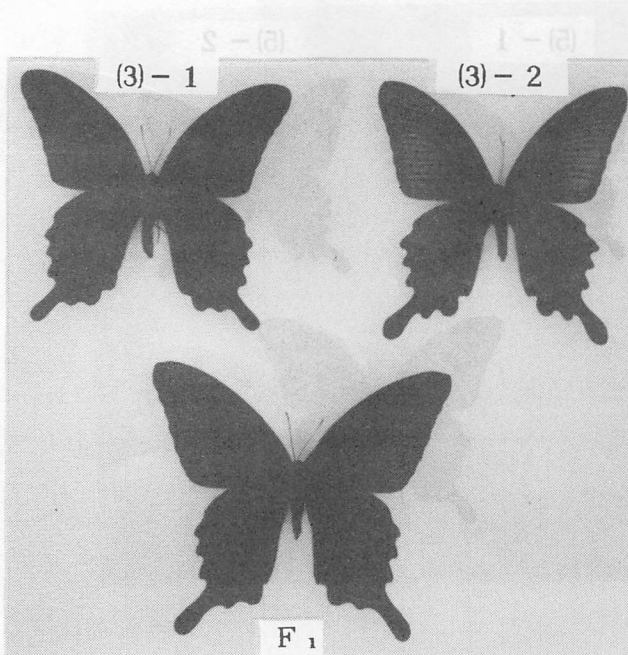
- ① オオルリモンアゲハ♂ *Papilio paris nakaharai* (1)-1)
コウトウルリオビアゲハ♀ *Papilio bianor kotoensis* ((1)-2)



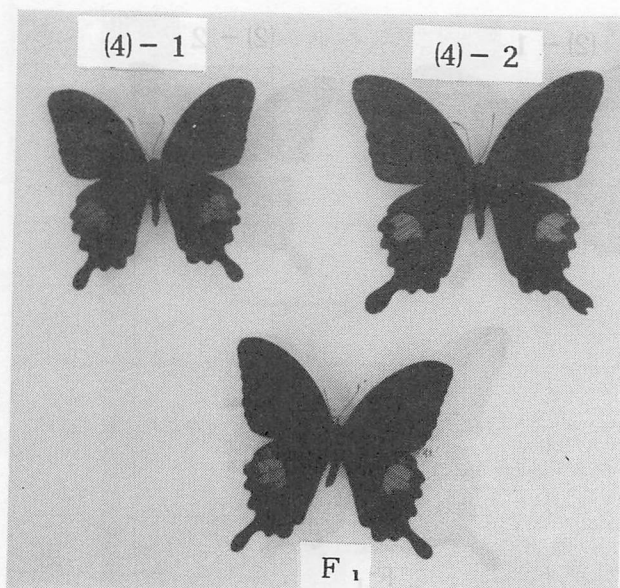
- ② コウトウルリオビアゲハ *Papilio bianor kotoensis* ♂ (2) - 1)
 カラスアゲハ *Papilio bianor takaago* ♀ (2) - 2)



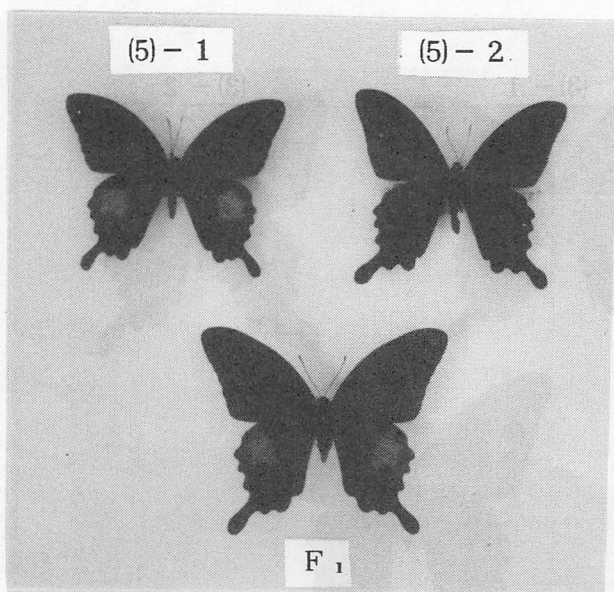
- ③ タイワンカラスアゲハ *Papilio dialis andronicus* ♂ (3) - 1)
 カラスアゲハ *Papilio bianor takasago* ♀ (3) - 2)



- ④ ルリモンアゲハ *Papilio paris hermosanus* ♂ ((4)-1)
 オオルリモンアゲハ *Papilio paris nakaharai* ♀ ((4)-2)



- ⑤ オオルリモンアゲハ *Papilio paris nakaharai* ♂ ((5)-1)
 カラスアゲハ *Papilio bianor takasago* ♀ ((5)-2)



以上のように交雑による研究をされている。阿江博士の文献によるとアゲハチ
ヨウ属ではF₁が成虫まで達する場合がかなり多いし、非常に近縁な種の間では
F₂までできる場合があるとのことである。しかし、周氏はF₃もつくっている。

④のルリモンアゲハ[♂]とオオルリモンアゲハ[♀]は外見模様は大変似ており、オ
オルリモンはルリモンアゲハの北部亜種とされるが、F₁は僅か2頭しか成虫に
ならなかったと聞いている。これからみればルリモンアゲハとオオルリモンアゲ
ハはあまり近縁ではないと思われる。